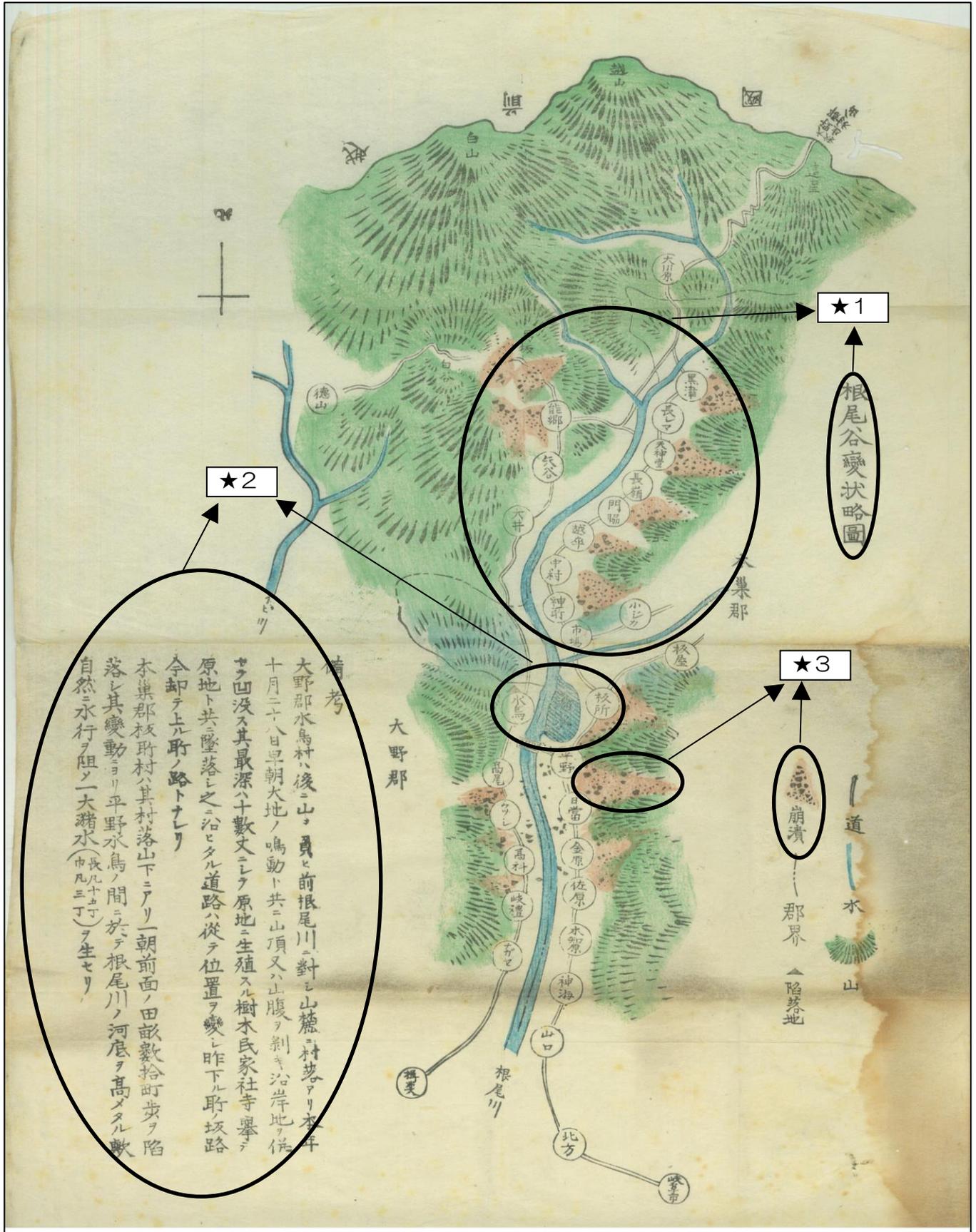


授業で使える当館所蔵地図

No. 83『根尾谷変状略図』『岐阜県下震災概況』より  
 作成年：1891（明治 24）年  
 サイズ：37×28cm  
 作者：岐阜県



### 【解説】

1891（明治24）年10月28日午前6時38分50秒に発生した濃尾地震（マグニチュード8.0）は、過去日本の内陸で発生した最大級の地震であった。地震による揺れも北海道や南西諸島を除く全国で感じられたほどである。

根尾谷変状略図は根尾谷の略地図に「崩潰」（地滑りによる崩落箇所）と「陥落地」（水鳥村）、「瀦水」（水鳥村の東辺の根尾川に出来た湖沼）を示し、左下に「備考」として大野郡水鳥村と本巣郡板所村辺における地形の変化について記している。

#### ★1 根尾谷変状略図

濃尾震災において、根尾谷は地震が最もひどかった所である。根尾谷は旧根尾村（現在の本巣市根尾）に位置する。中央に根尾川が流れ、山々に囲まれたところにいくつもの集落が存在した。山と川に沿って南北に主要道路が走っている。土地が沈んだり、塞がれたりしている地震発生後の土地の変化の様子が見て取れる。

#### ★2 瀦水（ちょすい）

濃尾地震の後、板所村と水鳥村との間に、突然湖ができた。東に位置する板所山の崩壊によってできたものである。土砂が上から滑り落ち、根尾川の流れを塞いだ。土砂によって堰き止められた水は上流側に溜まって湖となった。当時はこの湖のことを瀦水と叫んだ。この瀦水の大きさは27～29mほどあり、根尾の移動や物資の流通は不便を極め、瀦水は5年間残ったと伝えられている。規模は違うがこうした瀦水は各地にできた。

地震前は板所集落の南の方を流れている根尾川が、瀦水によって谷いっぱいになり、集落のすぐ近くに迫っていることが分かる。

#### ★3 崩潰（ほうかい）

濃尾地震において、根尾村は総戸数791戸に対してや508戸が全壊し、約60%の家屋が崩壊した。至る所で山の崩落が起こり、「山がへこんだから、今まで見えなかった丘が、今では頭上に聳えている」と地形の大変化と人々の驚きの様子が記録に書き記されているほどである。断層上にあった板所では、家が地中に落ち込み埋没してしまい、直下型地震によって一瞬で家屋が崩壊した。山の崩落によって川がせき止められて瀦水ができただけでなく、道が塞がれ、道路や橋の被害も甚だしかった。道路や橋の被害は人々の生活に大きな影響を与え、外部との連絡がとれず、物資の輸送が困難になった。

### 【用語について】

#### ・瀦水（ちょすい）

貯水のことであり、たくわえた水のことである。

#### ・水鳥、板所

旧根尾村の地名

#### ・白山

能郷白山のこと。能郷白山は、岐阜県本巣市、揖斐郡揖斐川町と福井県大野市にまたがり、両白山地に属する標高の1,617mの山。

### 【利用の例】

○濃尾大震災の被害の大きさを知ることができる。

→中学校地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」（自然災害と防災・減災への取り組み）において、岐阜県における地震についての導入場面で使用できる。

→小学校4年生「自然災害から暮らしを守る」において、地震によって起きる被害を地図をもとに考えるときに使用できる。

○理科や総合的な学習の時間の防災教育の一環として使用することができる。

→地震の仕組みについての学習で使用することができる。

→岐阜県で過去に起きた地震の例として、導入資料として使用することができる。

→地域教材として、本巣市や周辺の市町村の具体的事例として使用することができる。

### 【参考文献など】

岐阜新聞・岐阜放送『写真で見る濃尾震災-実態とその復興-』（岐阜新聞社1991）